

公共施設等整備検討に係る提言(平成28年1月13日提出)の概要

※各施設の「必要性」「備えるべき機能、コンセプト、設備」「建設場所、規模」などについては、広報おのまち平成27年11月号に記載のとおりです。

◆施設整備の複合性について

委員会では、①町民が集まりやすく、利用しやすいなどの施設の利便性 ②建設費、運営費、駐車場の効率的な利用などの経済性 ③施設周辺の活性化などの観点から、施設整備の複合性について検討を行いました。

検討過程では、施設を複合化することが理想であるとの意見が出され、「第四次小野町振興計画後期基本計画」や「小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」などで掲げられている子育て支援の充実を早期に図るためには、既存施設の改修による整備についても検討する必要があります。

また温浴・交流複合施設を単独で整備する場合、温泉などの地域資源の活用や町民ニーズにあったコンセプトの構築、備えるべき機能を十分に検討した上で、全ての町民が利用しやすい施設にすることが必要であります。複数の施設を複合施設として建設した場合のメリット・デメリットについて検討・整理した結果は、次表のとおりです。

順位	複合性の高い施設	複合した場合のメリット・デメリット ※提言書記載の主なもの	
1	保健センター + 役場庁舎	メリット	【施設の機能】 ●防災機能の充実・強化が図れること。(保健センターは、避難所などに活用ができること。) ●両施設とも、性別、年代に関係なく多くの町民などが来訪・利用する施設であり、利用者の利便性向上が図れること。 【コストの削減】 単独で建設する場合に比べ、敷地面積が少なく済み、会議室を共用することにより、建設コストの削減が図れること。
		デメリット	【事業の効率化】 住民健診など一部の事業については、従前どおり多目的研修集会施設などでの実施となる可能性がある。 【施設の管理など】 単独施設に比べ広い用地の確保が必要であることから、その確保が困難となる可能性がある。
2	保健センター + 温浴・交流複合施設	メリット	【施設の機能】 町民の健康増進を図るための保健福祉サービスなどが効率的かつ効果的に提供できること。 【コストの削減】 敷地面積が単独で建設する場合より少なく済み、建設コストの削減が図れること。
		デメリット	【事業の効率化】 役場組織の一部を配置することとなるため、事務効率の低下、利用者の利便性低下が懸念されること。 【管理面など】 単独施設に比べ広い用地の確保が必要であることから、その確保が困難となる可能性がある。